

大陸を越えて

パレスティナ非暴力直接行動に

参加しませんか！

アジアからガザへ！

国際連帯キャラバン

インド (インド) 発 - アジア大陸横断 - トルコへ
トルコから支援物資と共に船でガザへ

日本の参加者・支援カンパ大募集

参加国と参加団体

●インド

India Lifeline to Gaza (インド国内連帯実行委員会)

全インド学生協会、フリーガザ・インド、インド輸出入労働組合連
合、グローバル・ガンジー・フォーラム、インドパレスティナ連帯
フォーラムなど 51 団体で構成

Email: asiatogaza.india@gmail.com

Website: <http://www.asiatogaza.net/>

責任者: Mr. Feroze Mithiborwala

●マレーシア

責任者: Mr. Mohideen Abdul Kader

Email: cizs@sreamyx.com, makrawter@gmail.com

●トルコ

IHH (自由・人権支援財団)

Website [http://www.ihh.org.](http://www.ihh.org.tr/anasayfa/en)

[tr/anasayfa/en](http://www.ihh.org.tr/anasayfa/en)

他 約 20 カ国



**FREEDOM
FOR GAZA**

日本からガザへ連帯委員会 (JGC)

HP: <http://japantogaza.blog77.fc2.com/>

Email japanpalestinesolidarity@gmail.com

「日本からガザへ連帯委員会」結成の経緯

近年、パレスティナ非暴力直接行動支援 (Non Violent direct Action) が広がりを見せています。2001年の夏、第2次インテファダを機に始まったISM (国際連帯運動)。2008年、小型ヨットでイスラエルによる違法な海上封鎖を打ち破り、ガザ入港を果たした「フリー・ガザ・ムーブメント」。そして、イギリスからガザへ、参加者がハンドルを握り救援物資を送り届けようと結成された「ビバ・パレスティナ・キャラバン」などです。

「ビバ・パレスチナ・キャラバン」は5回を数え、10月20日現在、40カ国、400名近い過去最大の参加者を乗せてエジプト・ガザ国境のアル・アリーシュに向かい航海中です。

これまで、ガザ支援運動は欧米を中心にの呼びかけられてきましたが、今回、アジア初の「ガザ支援キャラバン」が出発します。

5月31日、9名の死者を出したガザ救援船“マブィ・マルマラ号”へのイスラエルによる公海上での攻撃。その直後から、インドをはじめとするアジアの国々から、アジア発の支援運動の提起がなされました。こうしてアジア・オセアニア20カ国が参加する「アジア・パレスティナ連帯実行委員会」が結成され、“アジアからガザへ・キャラバン”が決定しました。

日本からこのキャラバンへの参加を打診したところ、「日本でも可能な限り連帯運動を作り出して欲しい」との要望がアジア連帯実行委からあり、その声に応える形で、「日本からガザへ連帯委員会」を立ち上げることになりました。

今回の日本委員会設立は、当面の目標を、キャラバン参加と支援にありますが、キャラバン終了後も、次回のガザ自由船団への参加など、非暴力直接行動による国際的連帯を積極的

に行っていきたいと考えています。

今回の日本での連帯委員会設立にあたり、日頃からパレスティナ支援を行っている団体、個人、またはパレスティナ問題に関心のある方の積極的な参加を呼びかけます。キャラバン参加希望者は、後の参加募集要項をお読みのうえ申し込んでください。

また、現地参加は出来ないけれども、翻訳やウェブ管理など、事務局を手伝ってくれる方も募集します。同時に、日本からのキャラバン参加、そしてアジアキャラバン成功を目指し、団体、個人賛同も呼びかけます。

チラシの作成のため、賛同の第一次締め切りを10月31日(日)としますが、それ以降も、今回の終了後まで賛同を受け付けます。賛同の送付先は、お名前(団体の場合は団体名)、住所、連絡先、肩書きを記入の上、下記までFaxまたはメールにてお送りください。賛同金は個人が10000円、団体賛同10000円とします。

キャラバン成功には、多額の費用が掛かります。日本からは技術力を活かした救援物資送付も考えていますので、カンパもよろしく願います。

● 参加申し込み・問い合わせ先 ●

「日本からガザへ連帯委員会」

代表：阪口エキン

〒551-0023 大阪市港区港晴3-3-18-1F 創生社内

TEL 080-7009-5925 / 06-6572-9400 FAX. 06-6572-9441

メールアドレス japanpalestinesolidarity@gmail.com

● 賛同金・カンパ送り先 ●

ゆうちょ銀行 14190-36469901

フリー ガザ ジャパン

アジアキャラバン参加募集要項



キャラバンスケジュール

12月2日、インド・ニューデリーからの出発、経由都市での途中合流の両方を受付けます。参加用件は次の通りと致します。

12月1日	インド・ニューデリー集合	15 - 17日	トルコ・イスカダルンへ
2-3日	ニューデリー出発 パキスタン国境=ワゴへ	18 - 19日	シリア・ダマスカスへ
4日	パキスタン・ラホール到着	20 - 21日	ヨルダン・アンマンへ
5-7日	カラチ・クエッタへ	22 - 23日	レバノン・ベイルートへ
8日	イラン・ザヘダンへ	24 - 26日	トルコへ
9-14日	イラン・タブリーズへ	26日	トルコからガザへ出港

- 今回の“アジア・パレスチナ連帯実行委員会が呼びかける「ガザ支援キャラバン」の趣旨（資料参照）を理解していること
- 参加国・人数が多数のために、協調性を持ってキャラバン成功に尽力できること
- 長距離の移動に加えて、様々なその他の要件が加わるために、スケジュールの変更が当たり前に起こりえると思われれます。ブログなどのキャラバンの途中経過を参照し、日本の事務局と連絡を取りながら、インターネットやガイドブック、旅行代理店との交渉し、参加都市まで自力で旅のできること
- 陸路移動については、通常の海外大陸移動と同程度の安全性の配慮が必要ですが、トルコからガザへ向かう海路への乗船については、5月31日のマヴィ・マルマラ号へのイスラエル軍の攻

撃があり、安全性については、日本そしてアジア委員会も保障できない事を承諾すること。

- ここ最近のガザ支援船は、ことごとくイスラエル軍により、ガザ入港が阻止されています。阻止された後、イスラエル当局に収容された場合には、将来的にイスラエルへの入国が制限されることがあります。

以上の条件を受け入れた上で、ガザそしてパレスチナ連帯支援のために、今回のキャラバンへの参加を希望される方は、氏名、生年月日、住所、職業、合流される都市名を記入の上、事務局までFax またはメールにてお送りください。参加申し込みは11月15日を締切りとします。



資料

アジア・パレスティナ連帯実行委員会 決議と要求項目

1. 私たちは、勇敢なパレスティナ民衆への連帯を拡大すると共に、イスラエルのシオニストによる占領に対するパレスチナの抵抗運動を支援します。
2. 私たちは、エルサレムを首都とするパレスティナの主権国家の樹立を訴えます。
3. 私たちは、150万の人々が暮らすガザ封鎖の即時終結をイスラエル政府に対し要求します。残虐かつ非人道的なる封鎖は、ガザの人々をホロコーストへと導く、人道に反する破滅的な犯罪です。私たちは、ガザ侵攻により民族大虐殺に加担した罪でイスラエルの戦争犯罪人たちを起訴すること、及びゴールドスターン報告書の受け入れとその履行を要求します。
4. シオニストによる組織的かつ計画的な軍事攻撃により、民族浄化に結びつくパレスティナ人大虐殺が起こされた。その結果として強制的にパレスティナ難民が生み出されてしまった。私たちは、彼らの帰還権を求めます。
5. 私たちは、西岸地区とエルサレムにあるイスラエル人入植地の早急な解体・撤去を求めます。私たちは、かつて南アフリカでバンツタン居留地を生み出しごとく、パレスティナの大地を横切り、世界最大250万人の野外強制収容所を作り出してしまったアパルトヘイト分断壁の即時、解体・撤去を訴えます。私たちは、500箇所を越えて西岸地区の至る所に設けられているために、そこに包囲されて暮らすパレスティナ人住民達への、日常的な恥辱と暴力の源泉となっている検問所についても、即時撤去を求めます。
6. 私たちは、ここで再びシオニズムが人種差別主義であることを主張します。よって、私たちは、国連決議第3379号の復権と共に、国連と国際社会による再度の承認を求めます。
7. イスラエル政府がパレスティナの占領とアパルトヘイト政策遂行を継続している限り、私たちは、アジア諸国に対して、政治、経済、防衛、軍事、情動的あらゆる関係を、とりわけ、イスラエル製兵器購入を至急止めることを求めます。同様に、私たちは、南アフリカからアパルトヘイト政策を追放させたボイコット運動を、アパルトヘイト国家イスラエルに対して行うように呼びかけます。
8. 私たちは、イスラエルに対し、パレスティナ人指導者を標的にした殺害と市民に対する無差別殺戮を至急、停止すること、パレスティナの農地破壊と家屋破壊、非人道的、拷問の行為と水資源や他の自然資源の完全支配を早急に停止することを求めます。
9. 私たちは、イスラエル刑務所で苦しみ続ける11000人以上のパレスティナ人（女性や子供たちが多く含まれる）の即時釈放を求めます。
10. アル・アクサモスクと岩のドームは、その破壊を目的とするシオニストにより危機に瀕しています。私たちは、そのような極悪なる計画に反対する声を盛り上げていくこと、そしてキリスト教聖地に沿ってある全人類にとって共通の遺産であるその二つのモスクを保護することを訴えます。